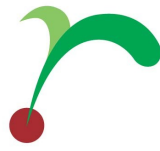




ライス通信

第7号
2008年 2月発行

NPO法人リヴォルヴ 学校教育研究所



二の宮事務所
〒305-0051 つくば市二の宮4-8-3 1-404
電話/FAX 029(856)8143
ライス学園 谷田部教室
〒305-0861 つくば市谷田部2983 (アラキヤさん2階)
電話/FAX 029(836)8447
E-mail npo_rise@ybb.ne.jp
ホームページ http://www.rise.gr.jp

ライス学園 ~2007年度カルチャー教室から~

ライス学園日記はこちら
<http://www.rise.gr.jp>



2005年から始まったマナビィ・ネットカルチャー教室も3年目を迎えました。今年度はスポーツ系、芸術・技術系、体験系など13種類ものクラスが開かれています。ライスの子も達はその中でたくさんの人達と触れ合い、成長しています。そんな活動の様子の一部を紹介します。(文・吉田)



7月10日・12月4日
シェイプアップ教室

サンシャイン・ウェルネスクラブにてシェイプアップ教室を開催。

握力、柔軟性、ジャンプ力などの体力測定や、リズムに合わせて体を動かす運動、トレーニングマシンを使っての体力作りを行いました。なかでもトレーニングマシンが大人気で、首にタオルを巻きながら必死に取り組んで、気持ちのよい汗をながしていました。



8月28日
結城紬を体験しよう

講師は、繊維工業指導所の皆さん。結城紬クイズや結城紬ができるまでの説明を聞いた後、実際に「糸とり」「糸あげ」「機織り」の3つの工程を体験しました。職人さんが使っている道具を目の前にみんな興味深々。最後まで質問が尽きません。将来結城紬の大職人になる子もいるかもしれないと思ったほどでした。



10月3日・11月14日
サッカーを楽しもう!

ハイビレッジスポーツからコーチを招き、サッカー教室を開催。初めての本格的なサッカー。ボールに慣れるためのトレーニングから始まり、二人組でのシュート練習、ミニゲームを行いました。ドリブルやパス、フェイントを使って上手にボールを運ぶ姿はなかなかのものでした。

7月24日
様々な遊びを体験しよう

講師は「茨城遊びのサポーター」の皆さん。ベーゴマ、けん玉、コマ回しなどの伝承遊びや、バルーンアートで麒麟を作ったり、ロケットを作って飛ばしたりと盛りだくさんの内容でした。実はライズの男の子達はベーゴマが得意!上手に回します。みんな驚いたのが、けん玉名人の技の数々。ライスでもけん玉を3つ購入し、朝の時間やフリータイムに練習しています。みんなで目指せ遊びの達人!



9月4日・2月5日
フィリピンの子どもたちと私たち

CFF (Caring for the Future foundation Japan) の皆さんを迎えて、フィリピンの子ども達と私達について考えるワークショップを開催しました。「自分にとっての幸せ(大事なもの)ってなあに?」を考えるグループトークでは、「家族」「勉強」「趣味」「まだ見ぬ恋人」など、様々な意見が続出! 2回目は、環境問題を取り上げ「こうなるであろう未来」と「こうなしてほしい未来」を予想し、自分達ができることを考えました。



10月5日
季節の食事を作ろう

茨城県栄養士会から講師を招き、「ふわふわお好み焼き」や「お豆腐入り白玉だんご」など5種類の料理に挑戦。先生のデモンストレーション後、3班にわかれてスタート。分量は目で見て、蓋をあけるタイミングは耳で聞いて、茹で上がりは手で触って、味は自分の舌で決める。五感をめいっぱい使うことでとってもおいしい料理になりました。「ただ作るだけでなく、どの食べ物がどんな体を作るか」栄養学もしっかり学びました。



8月3日
'イカス' エコバッグを作ろう

講師は、「SATURN project」の皆さん。縫製工場から出る余り布を素材に創作活動を行っており、たくさんのはぎれを持ってライスに来てくれました。今回はエコバッグに限らず、自分達の好きなものを作ることに。布を選ぶときからみんなの目は真剣そのもの。「布の組み合わせ方がいい!」「縫い方が上手!」と講師の方もびっくり。巾着、コースター、リストバンドなど思い思いの作品が出来上がりました。



9月14日
マイロケットを作ろう

講師は、東京・千葉の大学・大学院の現役学生の皆さん。前半は、実験や映像を交えて宇宙の話やロケットの仕組みなどをわかりやすく話してくれました。後半は、ペットボトルでロケット作り。パソコンを使って「水の量を変えると飛び方がどう変わるのか」をシュミレーション、実際に発射。結果は70~100mとみんな大記録達成。中でもT君の記録93mは今まで行われた教室で一番だったとか! やったね!



12月10日・1月28日
お箏に触れてみよう

講師は安田有希さん。お箏教室はカルチャー教室始まって以来ずっと続いている教室の一つ。初めは慣れない爪で弦を弾くのに四苦八苦していましたが、もうすっかり手馴れたもの。今年度は花筏(はないかだ)という曲を一琴、二琴に分かれて練習しています。少しずつ楽譜を区切り、何度も何度も練習。最後はみんなで合わせて演奏します。それぞれの琴が合わさるとなんと素敵な音色です。

学会参加しました



2007年11月23日(祝)~25日(日)の3日間、神奈川県横浜市にて「日本LD学会第16回神奈川大会」が開催されました。

今年は、昨年度に引き続き英語分野から「読解に困難を示す児童・生徒への理解と支援 ②」をテーマにポスター発表を行いました。学会への参加も今年で4年目を迎え、リヴォルヴ学校教育研究所の名前を知っている参加者もおり、私たちの発表を目当てに来た方も。また、実際に「ひらがなれんしゅうちょう」や「英語れんしゅうちょう」を使っているという先生方も大勢いました。

大会3日目には、現地視察もあり普段見ることができない施設や学校を見学することができ、スタッフにとって貴重な勉強となりました。

☆学会の原稿は近日中にHPに掲載します

いばらきマナビィ・ネットより

教育シンポジウムを開催しました



「地域子ども教室」「放課後児童クラブ」は、平成19年度「放課後子どもプラン」として新たな展開を見せています。

2007年6月17日のシンポジウムでは、文部科学省から専門官をお招きしその趣旨を伺いました。また、杉並区で学校教育コーディネーターとして活躍する生重さんのお話を伺った上で、県内各地域の実情に合った子育て・子育て支援のあり方について“茨城では何が出来るか”をパネルディスカッションで話し合いました。

その後も継続して4回にわたる勉強会を実施。実際に地域で活動している人や行政の方にも参加いただき、話し合いを持ちました。現在、その成果を提言書にまとめています。



考える力を養う授業とは

～OECD 15歳学力調査結果を考える～

経済協力開発機構（OECD）が2006年に行った国際的な学習到達度調査（PISA）によれば、日本の15歳の「読解力」は前回の14位から15位とさらに順位を落としている。文部科学省では今回の学習指導要領改訂に向けて「言語力の育成」を強調しているが、ただ英語を聞き流しているだけでは決してリスニング力が向上しないのと同様に、授業時間を増やすだけでは到底改善は望めない。問題は「考える力」をいかに養うかである。

英語学習の勘違い：耳で聞くから、聞き取れない

リスニングの力を磨くことを、「耳を鍛える」と言ったりする。けれどどんなに耳を鍛えてみたところで、それだけでは絶対に英語を聞き取れるようにはならない。考えてみればごく当たり前のことだが、そんな数多くの勘違いが、私達の足を引っ張り続けている。

「どうしたら英語が聞き取れるようになりますか」と質問されると、私は決まってこう答える。

「耳だけで聞こうとするから、だめなんです」

するとまた決まって、「それじゃ、どこで聞くんですか」という質問が返ってくる。そこで私は耳を使わないリスニング・テストをやって見せる。

「小学生同士の私とあなたがけんかをしたとします。負けて泣かされた私が何と言うか聞き取ってください。」と言ってから、声には出さずに「バツ」と口を動かす。すると誰もが、「馬鹿って言いました」と答える。「口がそう動いていたから」と言う人もいるが、口を隠しても結果は同じだ。誰もが皆、耳ではなくて雰囲気だけでこれを聞き取っている。

事実、私達はふだんの生活の中で、耳を使わないリスニングを頻繁に行っている。例えば駅のホームで、恋人を見送るあなた。電車の窓ガラス越しに、恋人が「○○○○○」と唇を動かす。それが悲しい別れの場面であれば、たとえ声は聞こえなかったにしても、あなたはそれを「さようなら」と聞き取ることができる。反対に声ははっきりと聞こえたとしても、誰かに突然

「チャ」とだけ言われたあなたはその意味を理解することはできない。しかし帽子を取って頭を下げていれば「こんにちは」だし、湯飲み茶碗を突き出していれば「茶（をくれ）」と言っているのだとわかる。



英語では I got it. が「アガリ」のように発音されるから、聞き取りが難しいという人もいる。しかし私達日本人だって「こんにちは」を「チワ」とか「チャ」などといい加減に発音していることが多い。それでも聞き取って理解できるのは、そこに場面や文脈があるからだ。私が長年愛用しているリスニング教材「Basics in Listening: Short Task for Listening Development」(Lingual House)の中には、右のような表を用いて時間を聞き取らせる課題がある。

- A: Hello. This is Biz mart.
B: Hello. What time are you open today?
A: We're open from 9 to 6.
B: 9 to 6?
A: Yes, that's right.
B: Thank you.



この課題の面白いところは、「9 to 6」が「9-2-6」と聞こえてしまうところである。私はこれを中学2年生で用いるが、ナチュラル・スピードで読み上げられる内容を理解するのは容易ではない。黙ってこれを聞かせれば、たいていの中学生は「何を言っているのか、さっぱりわかりません」となる。英語を得意とする生徒でも、「9:26とか言っていたような気がするけど…」と戸惑ってしまう。

そこで今度は、あらかじめ表の中の BIZ MART / Opens / Closes を読ませて、これがスーパーの看板であること、開店時間と閉店時間を聞き取ればいいことを確認した上で、「ビズマートが何時から何時までお店を空けているか予想してみよう」と問いかける。最近では閉店時間を「10時」とか「12時」と予想する生徒も多いが、「もう少し早いみたいだよ」として「6時」という予想を引き出す。そこで「今までの中に正解があります。もう一度聞いてみましょう」と再挑戦させる。すると今度はほとんどの生徒が「あっ！」と小さな声を上げて正解を聞き取る。

ポイントとなるのは、いかにして「予想」をさせるかということである。「9 to 6」と「9-2-6」では発音に違いはない。例えばルームナンバーを聞かれてそれに答えているという場面であれば、それは「9-2-6」であろうし、上記のような場面では同じ音声も「9 to 6」となる。その前にある from は「FROM」ではなくせいぜい「フム」で、ほとんど聞こえてこない。これを聞き取るには「(こんに)ちは」で聞こえなくなっている「こんに」の部分を場面から推測して聞き取るのと同じ作業が必要になる。

間違っはいけないが間違い

私が、「いくら耳だけを鍛えても、リスニングはできるようにはならない」と言う理由はここにある。聞いて内容を理解することも、読んで理解することも、ただそこにある文字を音に変えるというような受け身の活動ではない。「おなががすいたからだ」のような文を読むときにも、文脈を理解していなければ、「おなががすいた体」や「おなががすい宝だ」のように読んでその意味を取り違えてしまうことがある。

「耳を鍛える」という表現は、決して悪くない。しかしそれは決して、耳を掃除してよく聞こえるようにするとかいうことではないし、r と l の区別だって実は瑣末な問題に過ぎないのだ。しかし英語教育に限らず、日本の学校教育ではこのような瑣末な問題に拘りすぎるあまりに、考えるということが軽視されがちである。前号では、新見南吉の「ごんぎつね」から出題された小学4年生のテスト問題から、現在多くの学校で行われている授業の問題点を提起した。

今、求められるのは、教科書を丸暗記させてとりあえず点数が取れるようになるような授業ではなく、間違えながら、試行錯誤を繰り返して、正解に到達できるような授業ではないのだろうか。いや、もうそんなことは誰もがわかっているはずである。しかしそれが、わかっているつもりだけでは困る。私は生徒に「間違っはいけないと思うことが、間違い」だと言う。そして何より、生徒に「あっ！」と言わせるような授業を心がけている。

(文・小野村 哲)



正会員・賛助会員募集

リヴォルヴ学校教育研究所の活動は、多くの方々の善意によって支えられています。私達は今後も一層の研鑽に励み、活動を充実させてまいります。皆様のご支援とご協力をお願い申し上げます。

《支援方法》

○会員として入会いただく

正会員 個人 5,000円 団体 10,000円 学生 2,500円

賛助会員 個人1口 3,000円 団体1口 5,000円

☆会員特典として、セミナー参加費割引、出版物購入割引などがあります

○寄付をしていただく

寄付は随時受け付けております。使用済みの教科書（小中学生用現行版）やスポーツ用品、文具等もご寄付いただくと助かります。

○教材をご購入、紹介いただく

ライズ学園における実践の成果をまとめた教材を販売しています。詳細はホームページをご覧ください。

○学園スタッフ・事務局スタッフとして参加いただく

学園スタッフとして教科サポートをしていただける方、事務局スタッフとして経理・教材作成のお手伝いをしていただける方を募集しています。採用に際しては、内規に定められた手順を踏まさせていただきます。詳細は事務局までお問い合わせください。

《会費・寄付の振込先》

・郵便局

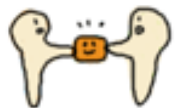
(郵便振替) 00120-5-171173 特定非営利活動法人リヴォルヴ学校教育研究所

(ばるる) 記号 10600 35657951 特定非営利活動法人リヴォルヴ学校教育研究所

・銀行

常陽銀行研究学園都市支店 店番104 普通1822778

特定非営利活動法人リヴォルヴ学校教育研究所 理事長 小野村哲 (オムラ サシ)



スタッフのつぼやき

ライズ学園スタッフ

龍井 昇治



文部科学省の諮問機関である中央教育審議会の教育部会が10月30日に標準授業時間改訂案を大筋で了承した。それによると、小中学校では理科、算数(数学)、英語の授業が33～16%増え、5年前に実施された現行の指導要領以前の水準に戻ることになる。今後の手続きが順調に進めば4年後の春から実施される。

その結果、週5日制は残しながら、小中とも「総合学習」の時間を減らし、中学では選択教科を原則減らして、増やした教科の時間を確保することになる。

日本の教育は、いかに入学試験で高い得点を取らせるかという暗記・詰め込み教育に没頭してきた。その反省から、5年前に、各教科を総合した「総合学習」の時間が設けられたのである。現場では、戸惑いをもちつつ必死に取り組んできたが、その総括を経ないで消滅することになった。これでは日本の教育は、いつまでたってもよくはないのである。

さて、ライズ学園は時間割の半分を「総合学習」の時間に当て次のような活動をしている。

田植えから稲刈り・さつま芋の栽培などの労作、絵画と造作(例:毎年クリスマスツリーを、つくばセンター広場に展示)、市内ならびに近郊の研究施設や博物館の見学、また、専門家による琴、調理教室、サッカー・テニスなどの体育といった指導もある。

ライズ学園で学ぶ子どもたちは、日本の教育で遅れていると言われる「創造力」、「自立力」や「発言力」を自然に、また着実に体得していて、将来よい仕事ができる人間になってくれるものと確信している。